

指導者のためのコーチング・バイブル



千葉・京葉ボーイズ監督

関口勝己 (せきぐち・かつみ)

1965年生まれ。栃木県足利市出身。山辺中軟式野球部で県準優勝。小山高では1年夏から遊撃手のレギュラーとなり、最高成績は県4強。明治大では故・島岡吉郎元監督が掲げた人間力野球のもとで活躍し、NTT関東(現・NTT東日本)では都市対抗に6度出場。日本代表の一員として史上初めてキューバ代表を破る。NTT東日本でコーチを務め、京葉ボーイズ創部とともにスタッフに加入。2015年に監督就任。

まとめ

- ☆選手の能力を上げていくためには「楽しさ」、「明るさ」も必要
- ☆上で通用する打撃を考えたとき、「上から叩いて、ゴロを打つ」スイングはNG。体格や打順に関係なく、強く振る意識が大切
- ☆実戦的な走塁と守備を身につけるためには、どこに打球が行くかわかりやすいノックだけではなく、実際に打者が放つ打球で練習することも重要
- ☆自分自身の可能性を広げるためにも、学生の本分である勉強をおろそかにしないこと



るチームだという。

「盗塁やセーフティーバントもできるから、打てない時にそうした戦いもできて面白いですよ。型にはめずに試合ができますし、選手たちもそれを日頃の練習でわかっていますから。一人ひとりに役割を与えて意識させながらやっています」

ボーイズ春季全国大会の決勝でも初回に先頭打者の二塁打から犠打、スクイズ(内野安打)とこれまでの京葉ボーイズにはないスタイルで先制して主導権を握ると、そこから持ち前の強打を発揮した。

京葉ボーイズの今後について関口監督はこんな展望を語る。

「すべてに磨きをかけて、やっぱりジャイアンツカップを優勝してみたいですね。またOBには京葉ボーイズの野球を広めてほしい。高校野球、そしてそれ以上のステージでね。これからも野球の楽しさを教えていきたいです。もっとうまくなりたいたいという気持ちと成功体験を選手たちと共有していきたいです」

京葉ボーイズの強さの秘訣は、理論に加え「野球を楽しむ」という原点を何よりも大切に行っていることなのかもしれない。